

初夏が
おすすめ

No. 10 茶どころ宇治の 名所をめぐる

自然

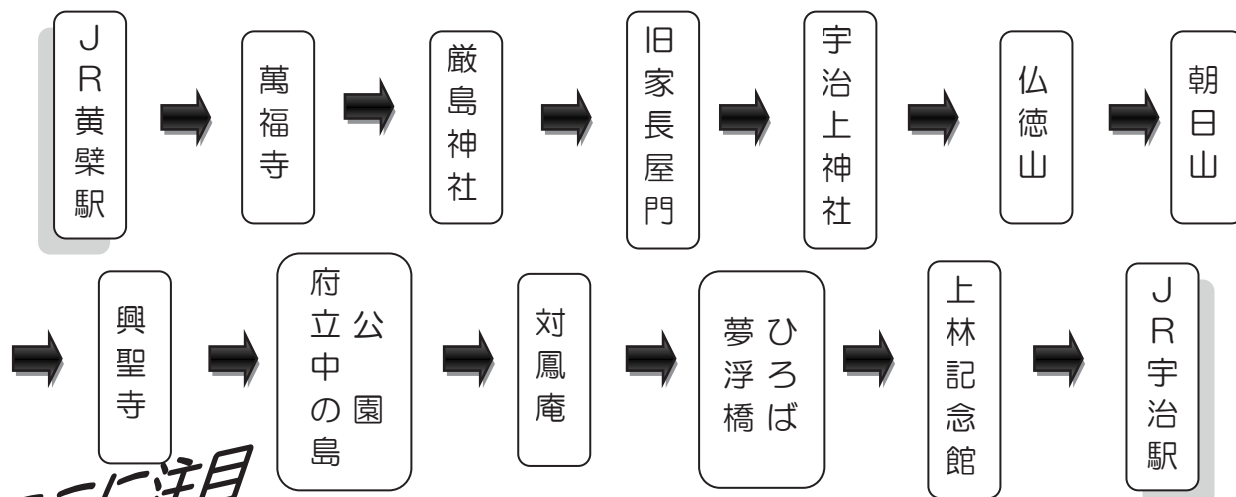
歴史

古道

宇治茶

おすすめポイント

「山門を出れば日本ぞ茶摘うた」の句そのままの世界が展開したであろう萬福寺から宇治への道は、古代、大陸の文化が行き来した街道である。明恵上人により茶が伝えられた宇治茶発祥の地 黄檗から巖島神社へかけては、かつて大鳳寺村といわれたところで一面茶畑であったとか。遠くに巨椋池跡を望み、世界遺産の宇治上神社から仏徳山（大吉山）へ登り、眼下にもうひとつの世界遺産 平等院、宇治市街を展望し、道元禪師開基の興聖寺へと向かう。このあたりは、かつて宇治七名園のひとつと呼ばれた朝日園のあったところ。ゴールに市営の茶室「対鳳庵」での一服はいかがでしょうか。



●旧家長屋門

宇治で茶の生産、製茶、普及発展に尽力してこの地で代表的な名家の一つになった旧家長屋門。宇治茶の発展に関わった茶師仲間の中でも上林家、宮林家、梅林家は『宇治の三林』として知られ、今に残る長屋門から往時の茶師の力が偲ばれる門構えである。

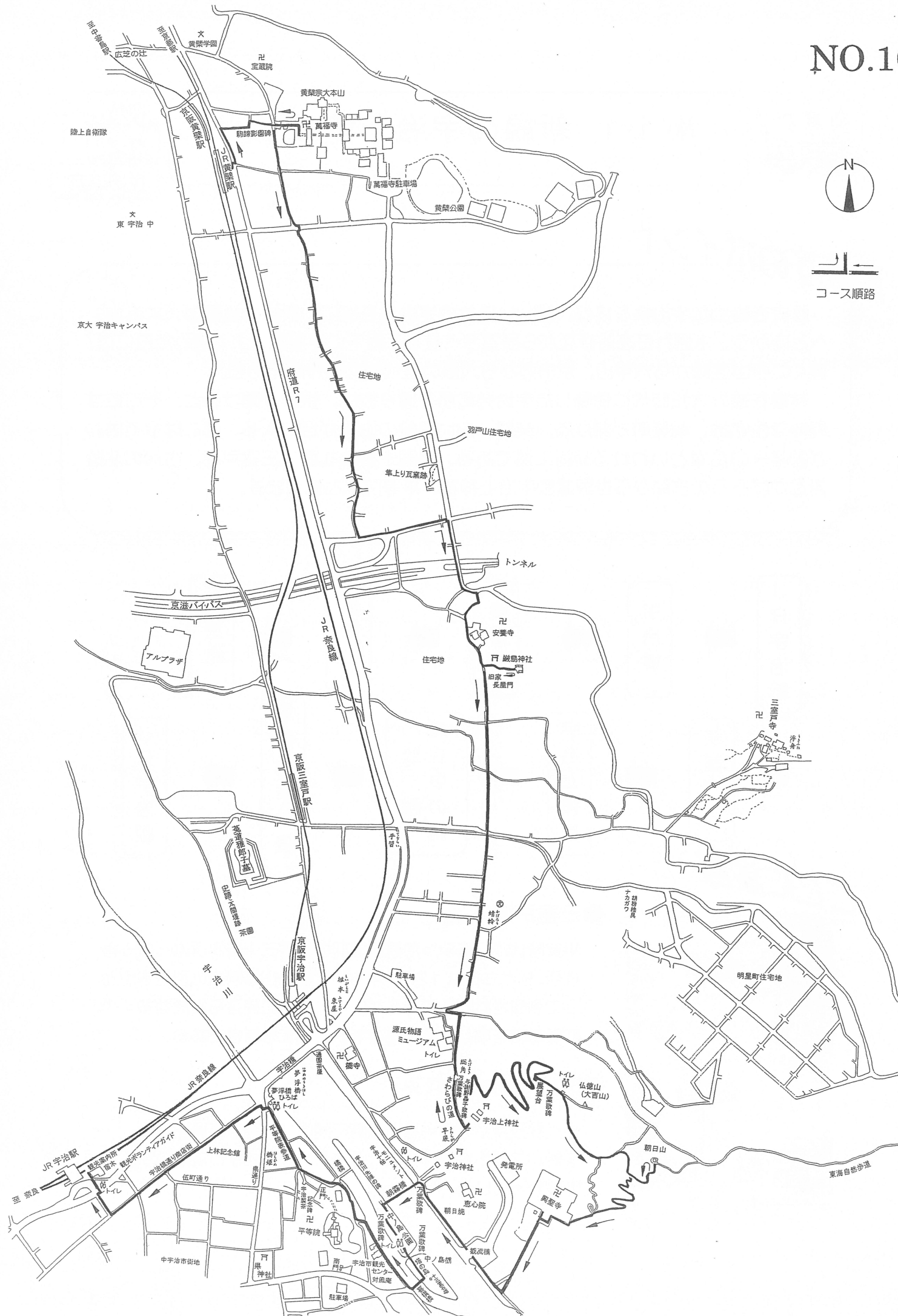


●対鳳庵（市営茶室）

数寄屋造りの市営茶室。平等院鳳凰堂に相對していることから『対鳳庵』と名付けられた。季節にふさわしい茶菓子を添えて、薫り高い本場の宇治茶のお点前の味をゆっくり楽しんでいただけます。



コース順路



初夏が
おすすめ

No. 1 1 新緑の宇治を歩く

自然

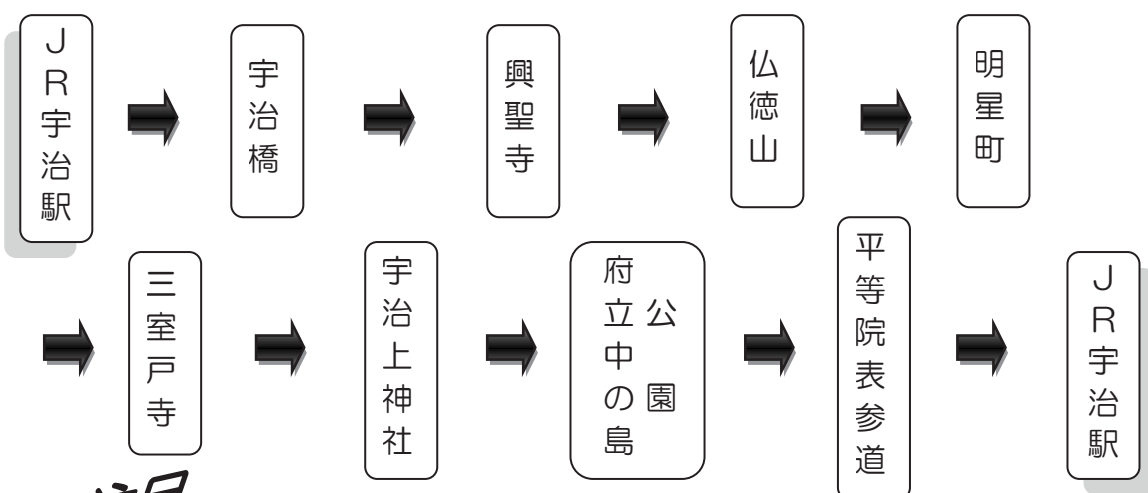
歴史

世界遺産

おすすめポイント

歴史を秘めた宇治橋を渡り、激しい流れの宇治川を横に、新緑の仏徳山（大吉山）へと向かう。木漏れ日を浴びながら展望台へ登ると眼下に平等院、よく晴れた日には、遠くに西山連峰から六甲山、京田辺から大阪の近代的なビルが望める。

林道を進み大正時代に稼動した宇治発電所を通り抜け、視界が開けると、そこには閑静な住宅地、明星町が開ける。突然、白い貝殻の山々が目に入る。そこは今ではわが国唯一の企業といわれる胡粉工場である。西国十番の札所 三室戸寺、古代の北陸道とかけろうの古跡から世界遺産宇治上神社、平等院へと続きます。



ここに注目



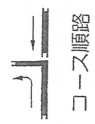
●三室戸寺参道

平安時代から広まった観音信仰の西国三十三ヶ所巡礼の十番札所。もともとは1200年も前に明星山修験宗の別格本山として創建された寺であるが広大な庭園に植えられた数多くの四季の花を楽しめる「花の寺」としても有名である。



●明星町のまちなみ

古くから神聖な山明星山の麓に開けた閑静な新興住宅地。宇治バスが住宅地の中まで乗り入れ、市街地との交通の便に役立っている。



至 奈良

秋がお
すすめ

No. 1 2 紅葉燃ゆ

宇治十帖ゆかりの地を歩く

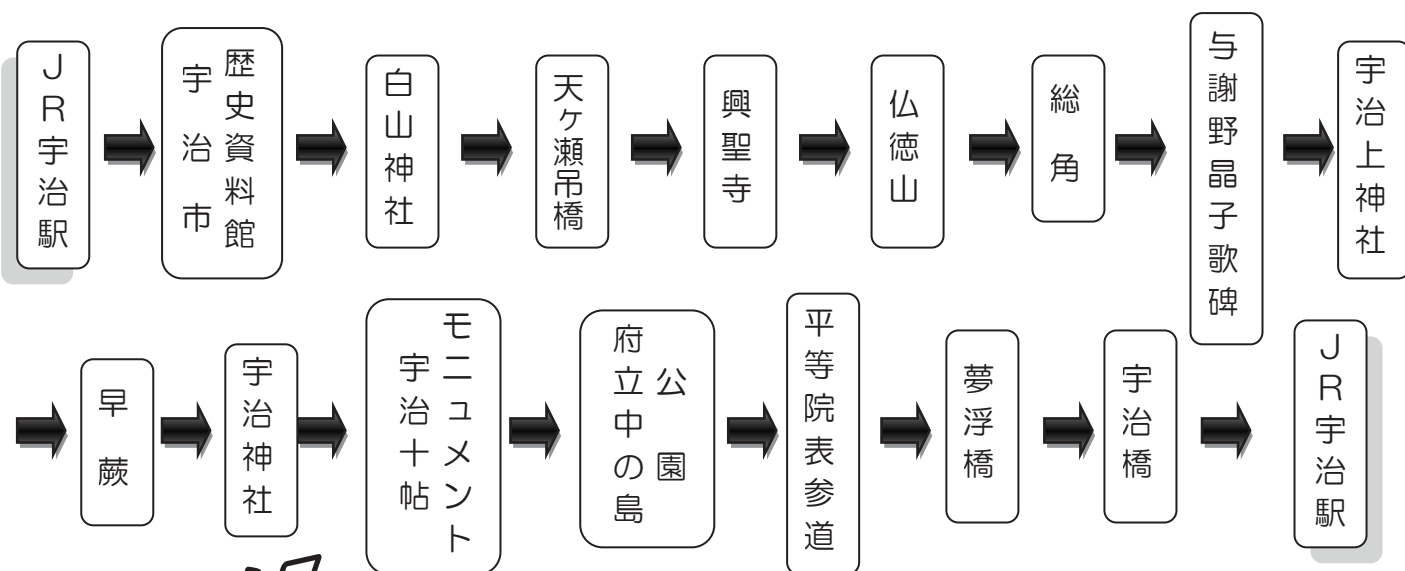
自然

歴史

源氏物語

おすすめポイント

平等院の奥の院といわれた白川の里、藤原頼道が山荘を設けたといわれるこの地に、娘四条宮寛子が、金色院を建立したとか。静かな山あいを通り抜けると、宇治川に架かる天ヶ瀬吊橋、激しい流れの宇治川から紅葉の名所興聖寺へ。ここから一気に仏徳山（大吉山）に登り、展望台から眼下に展開する平等院、宇治の街を、そして赤く染まった山々を眺めることにしましょう。



ここに注目



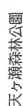
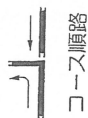
●宇治十帖プレート

1991（平成3）年宇治市のふるさと創生事業の一環として、散策道「あじろぎの道」とともに整備された。「さわらびの道」の真ん中に刻印された“さわらびと姫君”のデザインで源氏物語のまち宇治の魅力のイメージアップに寄与している。



●朝霧橋

宇治川に架けられた朱色に映えるシンボリック朝霧橋から眺めた景観。対岸に通学する学童のために架けられたという贅沢な橋であるが川の中ほどに立っての周囲の景観はすばらしい絶景で、観光名所の一つになっている。

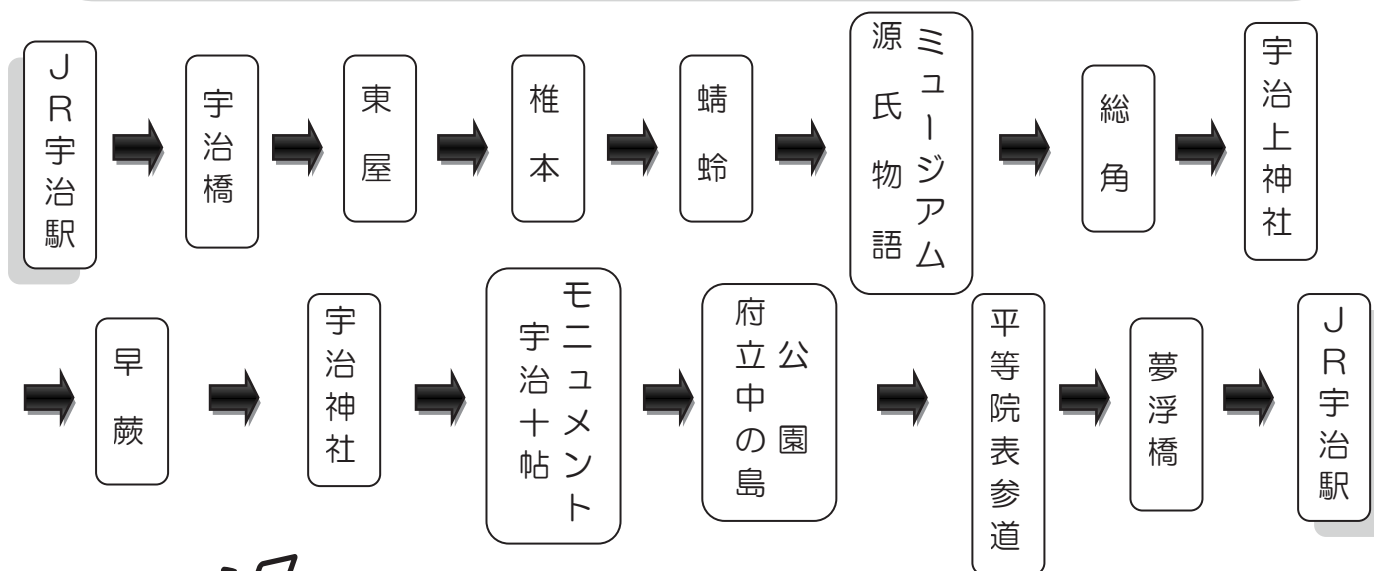


おすすめポイント

千年もの昔、藤原道長の娘彰子の女房として仕えていた紫式部による、世界に誇る長編小説源氏物語五十四帖、その最後の十帖は、この宇治を舞台に書かれています。

この宇治十帖の古跡をゆっくり歩いて、光源氏の子といわれる薫君、そして孫の匂宮、さらに宇治に住むという三人の姫君の実らぬ恋の物語をひもといてゆきましょう。

橋姫で始まり、夢浮橋で終るという宇治十帖は、川霧に煙る宇治川の周辺に、いつのころからか古跡が立てられ、私たちを王朝文学の世界へといざなってくれます。



ここに注目



●夢浮橋ひろば

源氏物語のイメージを広めるためにこの地に設置された紫式部の石像と宇治十帖最後の『夢浮橋』の古跡があり、背景に宇治橋が見えて周囲の景観を楽しむ『源氏物語のまち宇治』のシンボリックな観光名所の一つである。



●源氏物語ミュージアム

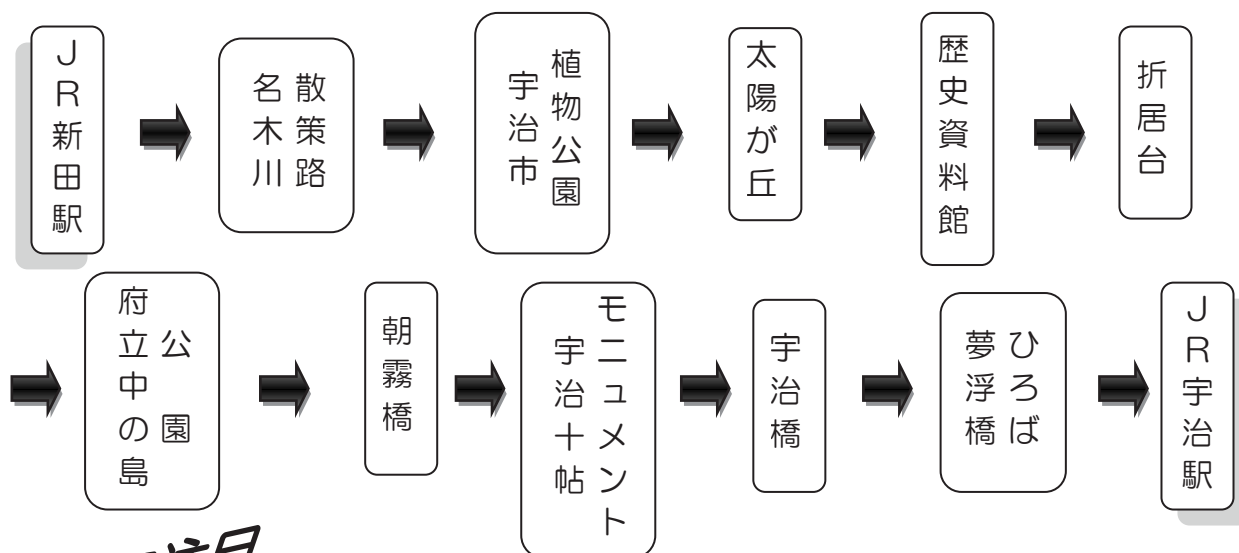
1998（平成10）年に『源氏物語をテーマにしたまちづくり』の中核拠点として開館された宇治市の施設。古今東西の源氏物語の文献、資料をそなえた図書室を持ち、源氏物語の世界を体験できる源氏ファン必見のミュージアムである。



おすすめポイント

JR 新田駅をあとに、名木川沿いに路を辿り植物公園へ。フラワブリッジの花の彩りに心を奪われ、花と水のタペストリーにしばし疲れも忘れる。ゆるやかな坂道を歩めば、右に左に源氏物語にゆかりのある樹木と解説に出逢う。たちまち千年の昔にひきこまれそう。瀧の流れが宇治川の波しぶきを想わせ木々の葉のそよぎが宇治十帖の侘びの世界へといざなう。

太陽が丘を過ぎ歴史資料館を経てやがて朝霧橋に。其処には姫君と公達の織りなす綾にしが、あでやかに漂います。



ここに注目



●植物公園タペストリー

1996（平成8）年10月に開園した宇治市植物公園内にある日本一を誇る大規模立体花壇。幅62m高さ18mの壮大な雛壇に3,675基のプランターを並べ季節にあった植物で錦絵模様を織りなす。



●光源氏つばき

椿はツバキ科の常緑高・低木。花期は1月から4月で万葉集の歌に詠まれる程古くから庭木として重宝される。光源氏は淡紅地に紅の縦紋りや白覆輪が入るボタン咲きの大輪で古典椿。由来は源平時代の源氏の白旗を白端（白覆輪）にかけたものとも言われる。

